



平成 30 年 3 月 14 日定例会発表要旨

稲積農場はなぜ地名として残らなかったのか

手稲郷土史研究会会員 齊藤 隆夫氏

- ① なぜ稲積でなく、新発寒となったのか？
- ② 農場を開いた人はどんな人だったのか？
- ③ どんなことをやった人なのか？……等々お話ししたいと思います。

稲積公園の近くを歩くと地名は残っていないが稲積の名が付いている「道路、公園、マンション、アパート、橋、病院、薬局、学校、駅、町内会」など数々あることが分かる。



稲積農場は明治 40 年に開かれ、戦後農地解放でその姿が消えている。小作農から自作農へと改革されたため多くの自作農家が生まれた。手稲稲積土地区画整理事業の完成により、地域の一層の発展を祈って建てられた記念碑が「郷栄乃碑」（現前田 5 条 5 丁目）として稲積記念会館前に残されている。前田農場も同じ経過をたどっていて、前田中央会館横の「自作農記念碑」（現前田 8 条 11 丁目）が建立され前田農場の「前田」と云う地名は残っている、しかし稲積農場の「稲積」という地名は見当たらない。

農場を開いた稲積豊次郎と言う人は 1861 年富山県高岡市横田町で生まれ、明治 23 年 29 歳のときに小樽と東京を行き来して肥料となる「鯨かす」の運送業を営み、小樽市堺町で倉庫業をやっていた。その後東京で米穀商を始めている。さらに明治 31 年 37 歳のとき小樽でも米穀商の登録をしている。明治 40 年 46 歳のとき手稲で稲積農場を開設、大正 6 年（1917）56 歳のときには北見の訓子府で農場を開設、3 年後の大正 9 年（1920）59 歳で置戸にも農場を開いている。

大正 10 年（1921）60 才で東京に移住し、2 年後の大正 12 年関東大震災で被災し商売をやめている。昭和 17 年（1942）81 歳の生涯を終えている。明治、大正、昭和の三時代にわたり活躍された。豊次郎は三男三女の 6 人兄弟の三男で、五尺の体（約 150cm）少々小柄な体であったが体力は抜群であった。稲積豊次郎さんは現在の追分通り、新川、JR 線、旧軽川に囲まれた 453ha を買い入れた。明治 39 年（1906）まで屯田兵条列で、屯田兵が入植予定の荒蕪地であった。明治 40 年に土地を購入して、新川（明治 19～20 年）が開削されていたので、農場の排水路を引き泥炭地を改良し、農地や事務所、でん粉工場などを作って開拓に力を注いだといえます。しかし昭和 20 年農地解放で稲積農場を閉めています。

稲積農場跡地は琴似町発寒、札幌市発寒（合併）、札幌市西区発寒（昭和 42 年合併）、札幌市手稲区新発寒（平成元年）に至っている。現在の新発寒及び前田地区の一部は、旧稲積農場であったので、旧前田農場地同様に「稲積」地名としてもよかったと思う。

次回の予定

30 年 5 月 9 日（水）

18 時 15 分～

「支笏湖物語」

若松 幹男会員

区民センター

3F 視聴覚室

明治、大正、昭和の三代にわたる現在の前田・新発寒地区の開拓に関わった稲積豊次郎の苦闘と多大な功績に触れて、まだまだ知られていないテーマを頂いたと感じている。

平成 29 年度部活動報告

1. 北海道造林合資会社研究会

2018 年 3 月 22 日

部会代表 沖田 紘昭氏

昨年 3 月に、会の講師役としての準備をしていましたが、北海道大学農学部図書館で林学科の資料の中に「北方林業」全 40 巻（明治 36 年 1 月 第 1 巻 第 1 号発行から昭和 17 年 第 40 巻 第 2 号にて終刊 通刊 459 号）製本版を発見しました。通館しながら、読み進む中で、この歴史を縦軸に、社史を横軸にとって「北海道造林合資物語」として纏めることが出来るかもしれないと直感し、以降そのことに集中してきました。現在、第一部は終了、第二部の執筆中であり、今年度は明治の開拓から百五十年の節目でもあり、六月には完成したいと考えています。そのため今年度は、個人としては、目一杯の活動となりましたが、会としての活動は出来ませんでした。新年度も活動はこの文章の完成後になると思いますので、予定は改めてご提案したいと思います。

2. 手稲石の会

- 29 年度は、定例会を年間 6 回ほど開催しました。
- 梅作戦による資金づくりと「手稲石と惑星」カラー版小冊子の発行
- 手稲記念館移動展示における、山の手博物館からの手稲石の借り出し（手稲石について知らない区民が多く、改めて認知活動の重要性を知る）

3. 新川 運河部会

新川ルネサンス ～新川を北海道遺産登録～

新川運河部会代表 渡部 孝次氏

新川運河部会では、これまで新川が開削されてから 130 年（明治 21 年・1888～2018）を迎えるにあたり、何か記念に残る事業等を計画していました。この後、道庁を中心に北海道命名 150 年を記念する事業が大々的に実施されることになりました。

こうした流れのなか部会では、単独の事業ではなく北海道 150 年事業とタイアップする形で、部会の目的を達成する方向となり、新川ルネサンス（新川の北海道遺産登録へ）という名称で、北海道 150 年「みらい事業」に登録すると同時に、新川の北海道遺産登録も募集することになりました。3 月中旬には全ての手続きが終わり、ようやく会員の皆様に報告することができました。（今後のご支援をおねがいします）

この間、北海道科学大学には、本事業への推薦者になっていただき全面的な協力を頂くことができました。私たちにとっては大変心強いパートナーとなりました。

新川は、ご承知の通り河口まで約 13km あります。その流域は、札幌市（中央区、北区、西区、手稲区）小樽市、石狩市など多くの行政機関が関係し、連合町内会や単位町内会などの地域団体や企業など含めますと一大経済・文化圏を形成しています。

明治維新から 150 年・新川開削 130 年記念

今後、私たち手稲郷土史研究会・新川運河部会では、新川の新たな可能性を探求していくことを目的に「新川流域を楽しくする会」を結成し、広く賛同者を募っていきたいと考えています。

◎新川及び運河研究会（運河部会）

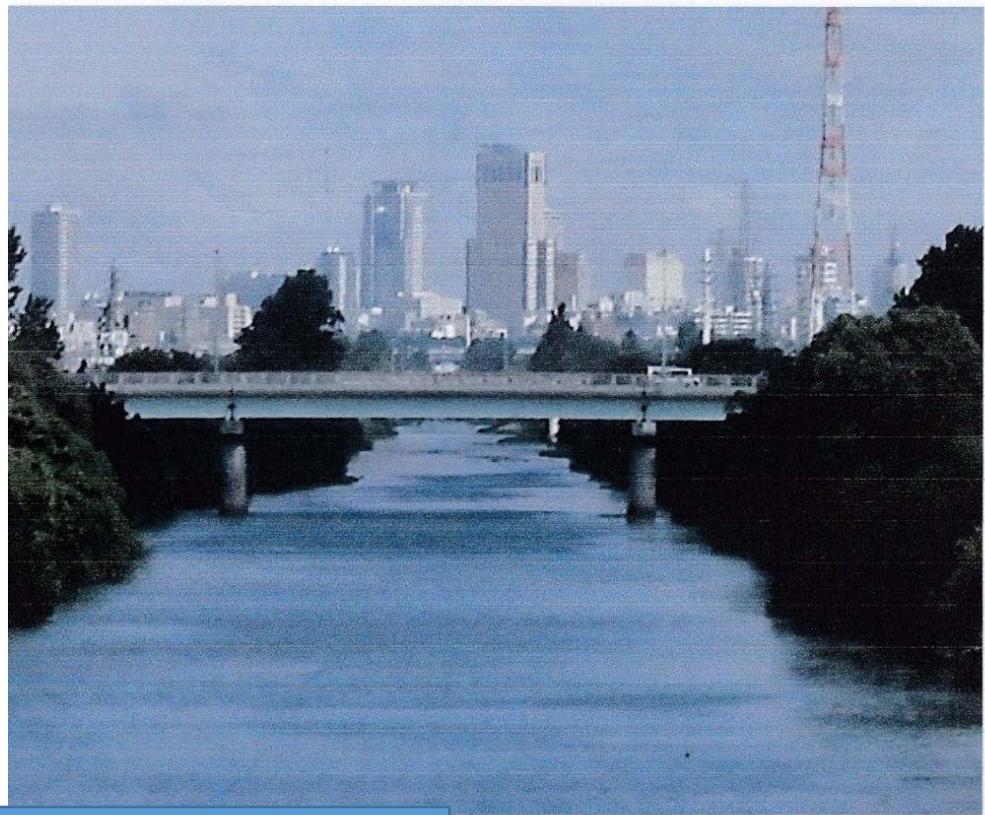
メンバー

- ◎ ・渡部 孝次
- ・村元 健治
- ・條野 雄一
- ・半澤 節子
- ・釣本 峰雄
- ・茂内 義雄

◎部会代表

新川流域を楽しくする会

—新川ルネッサンス・北海道遺産登録へ—



手稲郷土史研究会「新川流域を楽しくする会」